

2024年5月9-10日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・流向流速の観測結果とホタテガイラーバの分布状況についてお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

湾内の5～20m深の水温は概ね5～9℃台，20m以深の水温は概ね3～7℃台でした。湾内の水温は概ね平年並みでしたが，渡島側20m深前後で平年より2℃程度高い地点がありました（St.08；水深25mで平年差最大+2.5℃）。

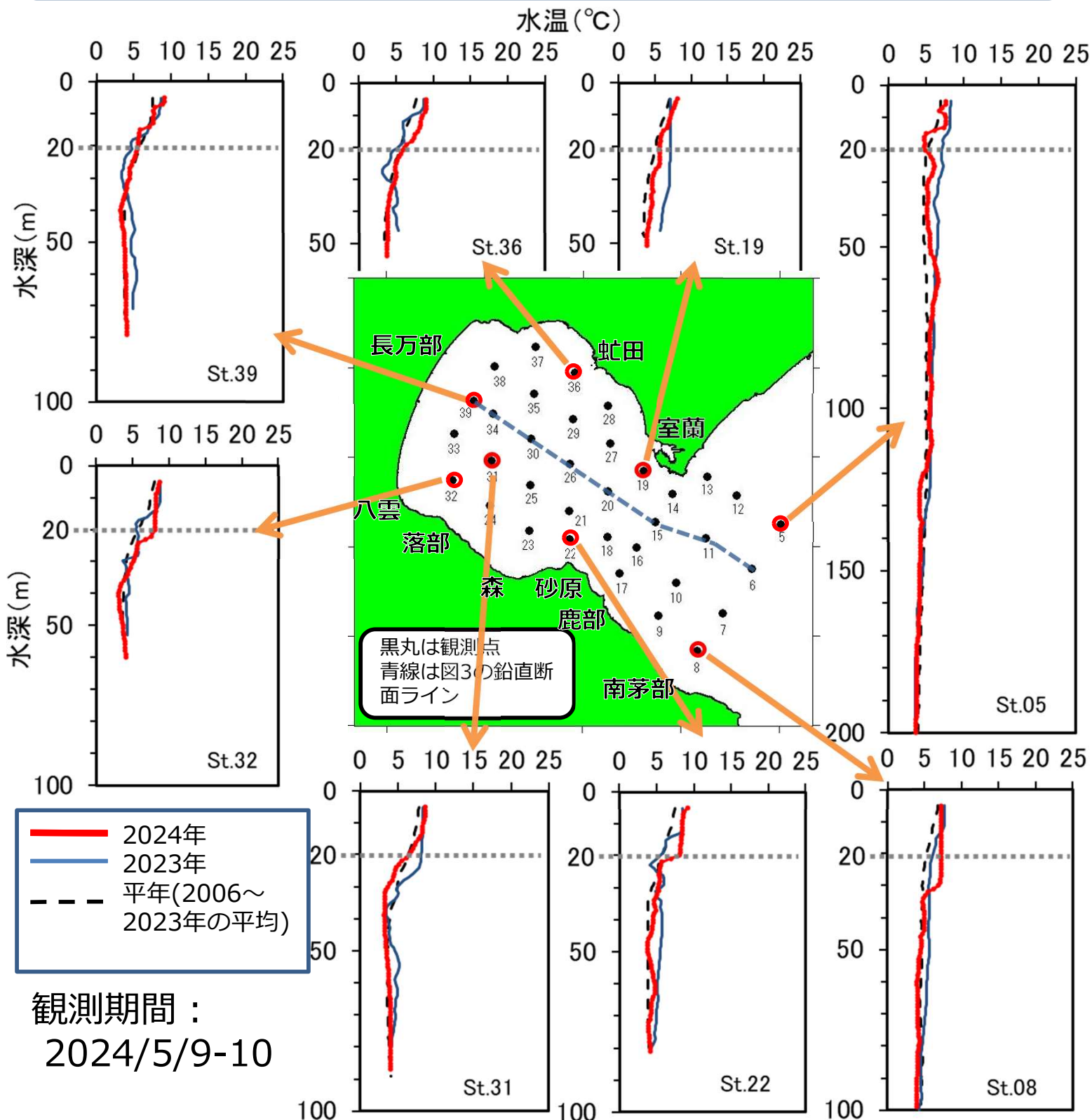


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水平分布：水温、流向流速、ホタテガイラーバ】

湾内の深度10mの水温は概ね8℃台で、湾外よりも1℃程度高くなっていました(A)。湾内の深度30mの水温は4～5℃台で、湾外よりも1℃程度低くなっていました(B)。湾東部から湾奥部にかけて時計回りの渦が形成されています(C)。ホタテガイラーバは湾内全域で出現しています(平均密度は591個/海水トン)。殻長160-170μm台が主体でしたが、一部200μmを超えるものも見られました(D)。

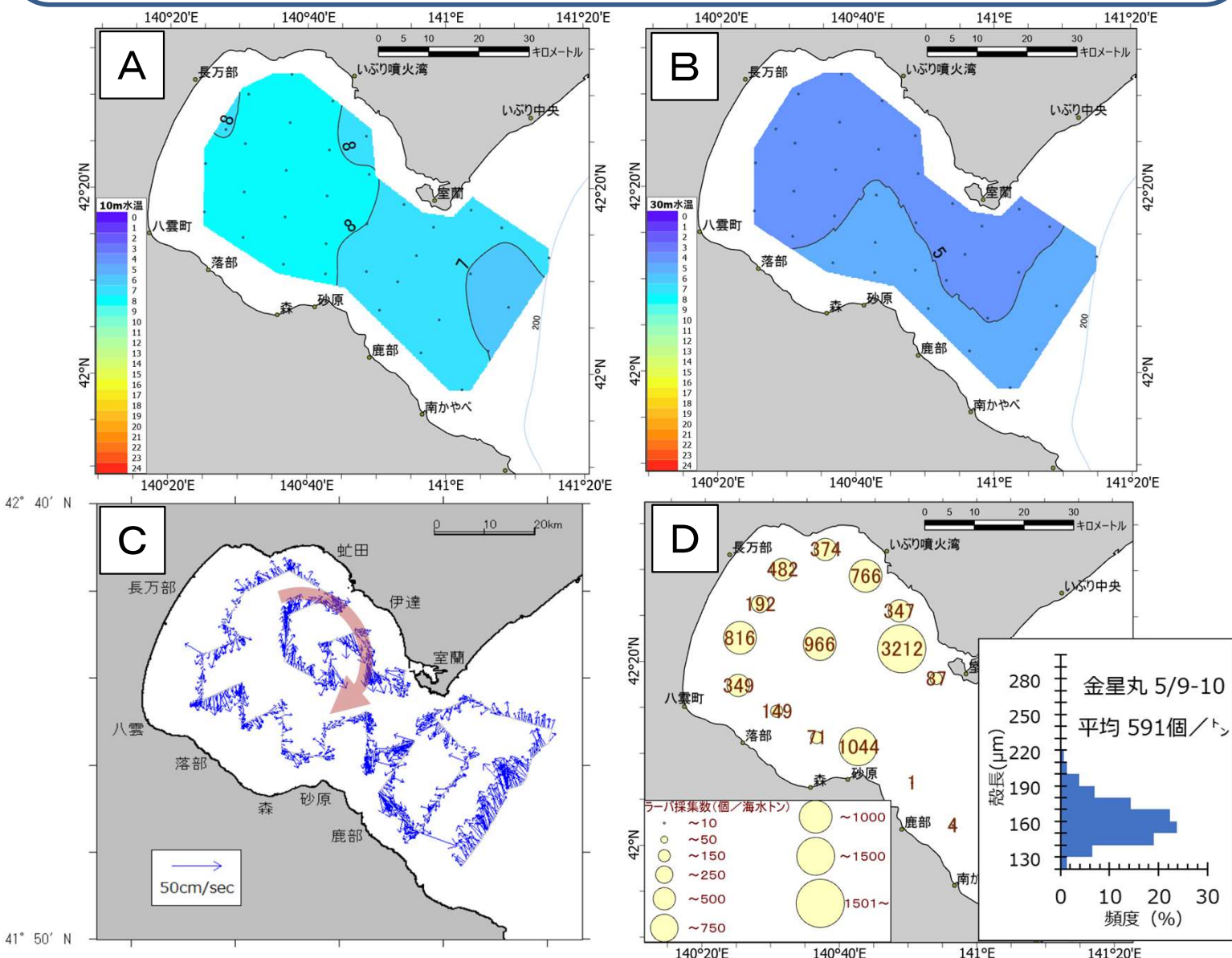


図2 A:水温(深度10m), B:水温(深度30m), C:流向流速(深度13m), D:ホタテガイラーバの分布

【水温、塩分の鉛直断面分布】

湾内および湾外の深度20m以深は水温3～6℃、塩分は32.8～33.6‰でした。また、湾外の水深60m前後には津軽暖流水(水温6℃以上、塩分33.6‰以上)が分布しています。親潮系水(水温3℃以下、塩分33.3‰以下)が確認されなかったことから、例年よりも噴火湾周辺海域への親潮系水の流入が少なかったと推察されます。

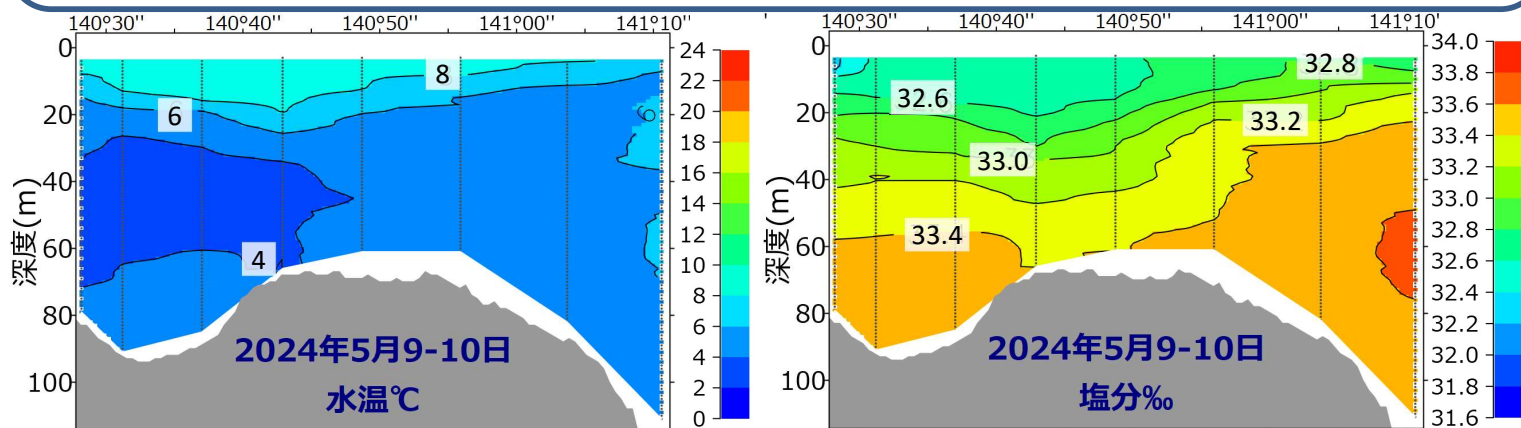


図3 水温・塩分の鉛直断面図(断面の位置は図1参照)